

尾 漢

第18号

尾瀬の自然を守る会

ちやくちやくと進む、奥鬼怒スープー林道

奥鬼怒では、現在、森林開発公團によるスーザー林道工事が進行中です。この林道は全国のスーザー林道計画同様、昭和四五年に閣議決定され、同年から開設工事が実施されてきました。この林道は当初群馬、栃木、福島の三県を結ぶ道路の一部として計画されましたが、本会をはじめとする反対の声で、尾瀬道路が凍結されたため、接続すべき公道を失い、計画は再検討を余儀なくされました。しかし、昭和四六年に八丁湯までの工事は認められ現在に至っています。

奥鬼怒スープー林道とは

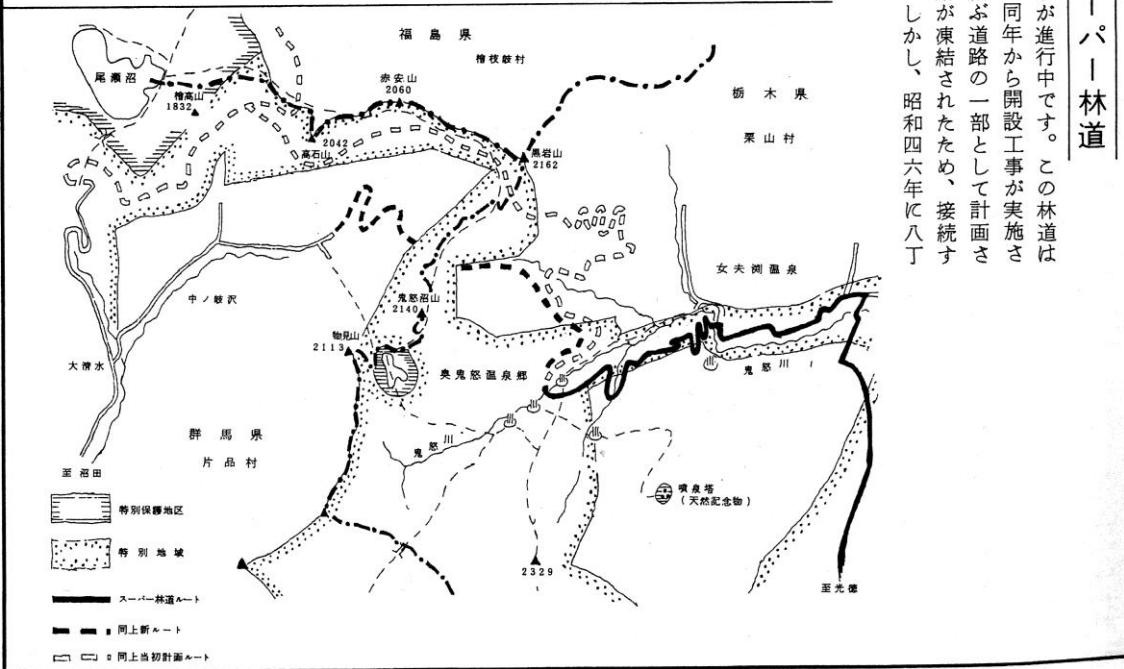
光徳から奥鬼怒温泉郷を経て尾瀬道路に接続する全長五二キロのもので、総工費三七億六三〇〇万円をかけ、日光側から開設されきました。年内には八丁湯までの約三〇キロが完工の予定といふことで、規格は幅員が四・六メートル、平均、最大勾配それぞれ一・二・二ペーセント、一〇・二ペーセントの砂利道といふものです。

地元栗山村と片品村は同林

何のための林道か

栃木県内でも電気電話のない最後の地域であり、現在なおランプ生活を強いられてゐる各旅館にとつては、やはり同林道は大きな魅力です。このような状況を経た各旅館の思惑と、地元有力者、大資本の微妙な影響で、最も重要な観光資源の将来を危ぶむ

道の開通に積極的ですが、開通後の管理が村の負担になる事や、秘境として知られる奥鬼怒温泉郷の俗化を危ぶむ声も少くありません。現在温泉郷へは、生活用車がやっと通れるだけのジープ道が整っていますが、主に河原を並行する歩道とジープ道は、過去幾度となく台風などによつて流失、崩壊を受けてきました。かつて奥鬼怒四湯が一致してスープー林道を誘致しようとしたのも、このような背景があつたためです。



声は、極めて弱いものでした。

すでに、シーズン中は各旅館とも飽和状態になつています。このうえ林道の開通、供用は、素朴な各旅館に計り知れない影響を与えることになります。

奥鬼怒の自然とは

奥鬼怒は、その気候、地理的条件から、紅葉のすばらしさは日本有数といわれています。スーパー林道が貫通する予定の栎木、群馬の県境には黒岩山、鬼怒沼山などの二〇〇メートル級の山が連なり斜面は急峻で、地質が第三紀層に属するため崩壊は至る所で見られます。付近は亜高山帯で、シラビソ、オオシラビソ、コメツガなどの広大な原生林の中に、ツキノワグマ、カモシカ、ニホンザルなどが生息する貴重な地域です。毎年六月中旬には、この付近一面にオサバグサが咲き乱れ、昼なお暗い林床も、この時はかりは白一色に染まります。谷あいを流れる霧の中へ、その白い群落は果てしなく溶けてゆきます。日光の自然を守る会の宇大教授田中正先生、宇大名誉教授森谷憲先生の調

査では、この地域にとつて希少種である昆虫や植物が発見され、豊かな自然が残されていました。

一方、この地域には、標高二〇二〇メートルに鬼怒沼があります。カラカネトンボやメスジゲンゴロウなどの希少種が生

息するこの沼は、すでに過剰利用されており、植生の一部は完全に裸地となっています。

保護政策は完全か

残念なのは、植生復元対策予算が少いことです。私は、この沼のゴミを少しでも集め、同時に栎木県に対し、植生復

元対策を早急に進めるよう求めていこうと思っております。

特別保護地区である鬼怒沼へは今年で二三回目ですが、一度も管理員には会いませんでした。管理員の巡回を定期的に行ない、さらに奥鬼怒の理解を深めて欲しいものです。

奥鬼怒にはこの他、特別保護地区内に天然記念物の噴泉塔があります。ここは近年あまり利用されておりませんが保護対策は全く施されておりません。ここも、鬼怒沼同様将来の過剰利用が心配です。

林道の影響は

したがって、この地域の自然環境にとって、スーパー林道は許すことのできない破壊行為といえます。地元栗山、片品村内には開通促進への気持ちが強く、地域振興を見込んでいますが、林道が開通すれば、今迄行き止まりで秘境だつた地元温泉郷は、他の観光地同様、素通りするだけのものになる恐れがあります。

さらに、同林道によつて、尾瀬と鬼怒川・川治などの温泉地が最短経路で結ばれるこ

と思われます。

これは、地元にとつては、決して有利なものとは思われません。さらに、林道開通によつて自然景観が破壊されれば、奥鬼怒の魅力が存在する余地はないものと思われます。

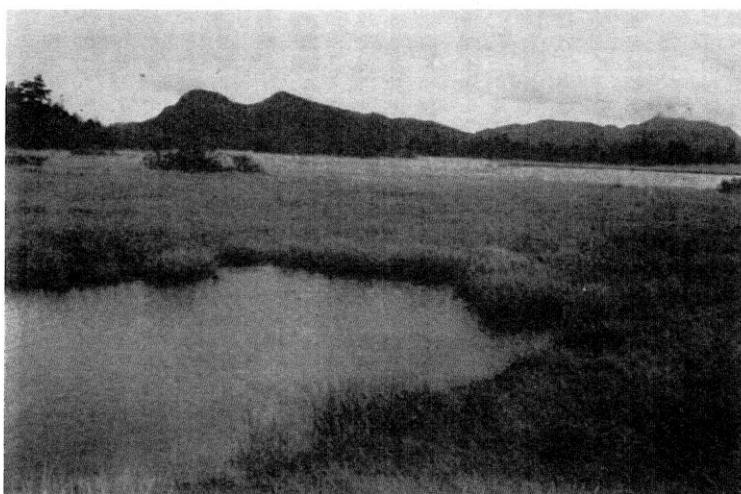
また、鬼怒沼山の山腹を貫通するトンネルが、鬼怒沼の保水に対してどのような影響があるか、また、崩壊しやすい地形をどのように克服するか、八丁湯以西の計画には、難問が山積しているといえます。これらの問題に対し、充分なアセスメントが必要なの

は言うまでもありません。

今後に向けて

幸い、環境庁、栃木県は同林道八丁湯以西の工事認可には消極的な反応を示しているものの、南アスマー林道の前例があるように、状況は楽観できません。私は、地元に対する対して、冷静な利益衡量を促すと共に、林道開設にあたつては、充分なアセスメントを要求していきたいと思つております。

奥鬼怒の自然を守る会代表
菅原 典史記



秋の鬼怒沼平原

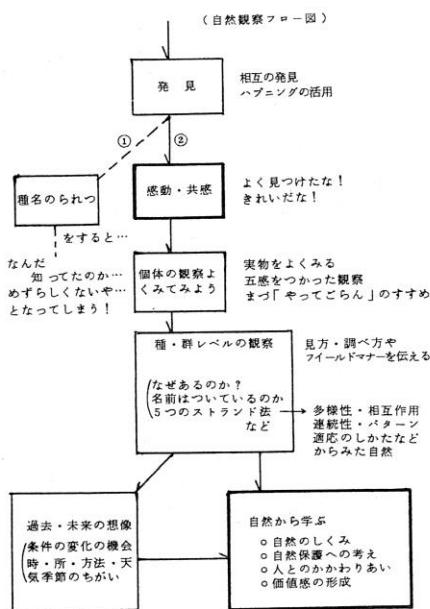
第3回尾瀬自然保護指導員養成講座終る

第三回の室内講座は、九月二十八日東京農大一高にて行なわれた。田平先生の講演をうかがうことができた。演題は「自然保護指導の理論と実際」であり、ここにその要旨を御紹介したいと思います。

指導員の条件として。
① 自然保護への使命感から
 指導員は人に對し、教育及び啓発活動を行なうので、自然保護に対する意識はより高くなればならず、実践力も備えてくる必要がある。單にルールとしてではなくモラルとして保護をとらえるならば、たてまえとしての行為は無くなり、言行一致したもののが残ると考えられます。これは当然のことです。

さることなくより高度に活用し、さらにそのように豊かな状態のまま次の世代に残し伝える」と定義づけられており、自然を資源（無限資源）としてとらえ、利用（精神的も含む）するもので、保護の為手を加えることも必要であるとされていく。保全とは、Conser vati on（自然資源保護）であり Protection（保護防衛）より広くとらえ方です。尾瀬のようないくつかの観察法がある。尾瀬のようないくつかの観察法がある。

② 知識を貯えること。
 自然の保護について、国際自然保護連合では「自然をより豊かな状態に保全し、その資源を潤滑



の考え方を正しくとらえた上で Protectionが必要です。その為にも生態系や広い視野からの地球化学の認識は不可欠で、生態系の理解がなくては保護は不可能です。そしてその考え方を生かすには、保護の為の法律や行政機構の知識についても知る必要があります。「次の世代からの借り物である自然を守る」という責任のもと一層の努力が望まれます。

③ 指導技術を高めよう
 多様な行動の指導にあたり理解しやすい教材教具の開発と応答技術（話術・发声・注意のしかた、対照物のとらえ方）を養う必要があります。これらは各自の自己研修によ



熱心に金田先生の講義を聴く受講生達

つて蓄えられるもので、旺盛なる探求心をもつてこなしで頂きたい。具体的には、観察会等の指導では教えるのは自然自身であり、自然から学ぶのであるから指導員は理解を助けるてだてを考えなければならない。観察用の小さなピンやチャート・観察ノート観察用具を自作する。等くふうされた道具は興味と理解を増幅させるものです。また話は適當な声量ではつきりと簡単な単語で行ない、目の高さな

どを合わせるなど見えていた物を話で見せられる技術が必要です。図は実際の観察の道すじを表わしたもので一例としてあげておきます。美しい自然からの素直な感動と、名前でおわらせずより広い視野をもてるよう指導を望みます。最後に、体力とはつきりした意志をもち是非自然保護の同志となるようお願いします。御質問・御意見等は事務局まで。

文責 横山隆一

第三回の講座を終って指導員として次の方々が認定された。一昨年の第一回から今回まで事務局側の者を合せて六九名の自然保護指導員が誕生したことになる。今後の活動を期待したい。（氏名の前の番号は指導員番号です）
 50 金田平、52 松村幸雄（以上事務局側）53 井上辰夫、54 梅沢和夫、55 大金美保、56 岡村豊子、57 小野木砂江、58 千明康弘、59 高橋民、60 星恵子、61 松本友二、62 飯塚忠志、伊藤文子、64 志村勝美、65 千賀修二、66 和泉建夫、67 西島政行、68 早川秀則、69 小川正紀（以上受講生）

昭和55年10月30日

尾

瀬

燧・裏塙観察会報告

(九月二十一日～二十三日)

泊三日。)

今回の行程は大清から答り鳩待峠へ下る関係で、電車・バスを利用する参加者を別にし、自家用車で参加する人達（戸倉に車を置く様に指導している。）を考慮した。予定の時刻に間に合わぬと判断し、町田・秋山の両娘（事務局）に先行してもらつた。真赤に色づいたヒロハツリバナの実を観察しつつ、三平峠では盛り過ぎたシャクジョウソウなどを見たりして、三、四十分遅れて長蔵小屋に着いた。参考資料を配り、明日からの行程について説明。夕食後はビジターセンターで映画・スライドを見て学習会に替えた。

・九月二十二日（月）午前六時半に小屋を出発して、長英新道を登る。前日は小雨が降つたので心配したが、それが程でもなく快調に登ることができた。途中、白い実の残つていてるハリガネカズラを一ヶ所見付ける。ゴゼンタチバナは所々で真赤な実をつけている。ほとんどの草は枯れかかっている。が、オヤマリン

ドウだけが未だ花をつけていた。あえぎながら登つたシノブチ岳の平らなテラスに着いた時、小雨まじりの冷たい風に吹きさらされ、あわてて風の当らない木陰で休憩する。

頂上までの岩場にはコケモモ、ガンコウラン・コメバツガザクラ・イワカガミ・ヒメイワカガミやミヤマキンバイも葉はまだ健在で、頂上付近にはヒトツバヨモギが果実をつけたまま、まだ残つていた。

予定通り九時半頂上に着いた。

二時半。ここで東京から参加した白瀬さんが、やむをえな一件事情で帰られた。

午後一時御池を出発。静まりかえた裏塙の自然を心ゆく

まで観賞しつつ、上田代を過ぎ横田代を進む頃より雨足が

繁くなり、このまま渋沢温泉へ行くには急坂を下るために、

危険性があると判断し予定を変更して温泉小屋経由で下田代に向う。途中、大櫛沢でトガクシショウマの大群落を見

て、四時過ぎ第二長蔵小屋に着く。その晩は、汚染問題や範囲での解説を行い、少憩後御池に向かう。下り始めて間もなくガレ場に出る。そこ

にジヨウシュウオニアザミ、

が、岩礫の上にしがみついて

いる。そこから少し下つた付

近には、待望のヒメウメバチ

ソウの小群落がしばらく続く。

大事に保護してゆきたいと思

り、岩礫の上にしがみついて

り、ナガバノモウセンゴケは少しばかり姿を留どめているに過ぎない。ただツルコケモの赤い実が半分ミズゴケに埋まっているのが目に付いた。

モの赤い実が半分ミズゴケに埋まっているのが目に付いた。

下の大堀川にはスギナモが流れ、ゆらいでいた。山の鼻で昼食をとり、一時に出発。途

中ツクバネソウが真黒な艶の

ある実をつけているのを見る。

ヒロハツリバナ・オオツリバナは、真赤に熟した種子を四方に張り出した果実から、吊り下げる。ジヨウシュウトリカブトは、その特徴であるムカゴをつけて他の木に寄り掛りながら淡紫色の花を咲かせていたのは印象的であった。午後二時、予定より早く鳩待峠に着き三日間にわたる観察会を無事終了した。

入会のおすすめ

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び、行動する「市民の会」であります。昭和四十六年八月尾瀬を通る国際観光ルート沼田一

田島線建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によつて、運動は続けれられております。

尾瀬を愛する皆さん、小さ

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまで運動にご参加下さい。

運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまで運動にご参加下さい。

会の活動　○会報「尾瀬」の発行　○自然観察会　○自然保护員養成講座　○その他、自然保護に関する調査研究、講演会など。

第二回 尾瀬教室報告

風物誌

八月二四日尾瀬沼に於て
等々力徹郎氏を講師に第二回

ただ目的地へと忙しく歩きまわるハイカー達。果して彼らの内どれ程の人々が尾瀬の自然の豊かさに気付いているのであろうか。もちろん滞在時間や走破距離の长短で、自然の理解度を押し計るわけにはいかないだろう。しかし残念な事なのだが、尾瀬を訪れる多くの人々は都会生活の感覚をそのまま持ち込み、そのなかで自然を理解したつもりで終っているのである。

私たちが企画した絵画教室や動・植物の觀察だけで、自然が総て理解できるとは言いませんが、これらの行為を通して優れた尾瀬の自然に少しでも親しみ、より豊かな山行に対する事ができるのではないかと思ひます。

奥鬼怒ス一パ一林道視察のお知らせ

奥鬼怒スリバー林道視察のお知らせ

我国特産のキノコで主とし
てブナの幹に群生する。傘は
大きなものは二～三〇センチ
に達し、半円形で厚い肉質で
一方に短かい柄をつける。上
面は紫褐色で下面の厚いひだ
は純白、暗いところで青白い
光を放つ、ツキヨタケはうま
そうな色と形をしているし、
悪臭もないので誤ってたべる
ことがあるが毒キノコである。
茎を裂いてみると黒いしみが
あるのが特徴。またブナには
ムキタケと云う同じような外
観の食用になるキノコが生え



ツキヨタケの群生

るので注意をしたい（表皮ははげやすく、ピロード状の毛がある）。シキヨタケは尾瀬では九月～十月にブナの老木や時に木道に生えているものを目にする。

ツキヨタケ
日本特産の毒キノコ。新鮮
個体は、下面ひだ全面が発光
する。

<u>入会申込書</u>	年	月	日	<u>16</u>
1年会員費 1,500円を添えて申込みます。				
名前(ふりがな)		男 女		
現住所				
〒()				
M 自宅電話()				
S 年 月 日生				
勤務先 電話()				



尾瀬の自然を守る会会報
尾瀬 第十八号
発行日 昭和五十五年十月
発行者 岸 好人
編集者 河内輝明
連絡先 東京都世田谷区深沢
五一一二二一(岸方)
電七〇四一一二三九三